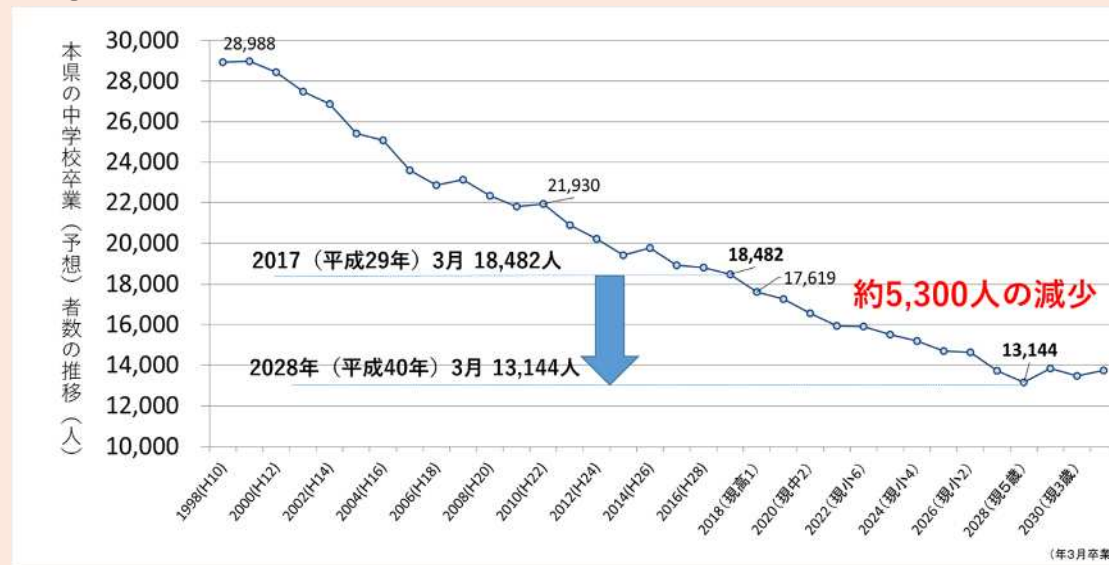


背景① 人口減少や少子化の進行



背景② 県立高等学校の小規模校化

→全日制高等学校 81校のうち、30校（約37%）が1学年3学級以下（H30生徒募集の高校）

背景③ 生徒の学習ニーズの多様化

→本県の高等学校進学率 98%以上 多様な生徒が様々な学習目的で入学

新しい改革計画策定の必要性

福島県学校教育審議会（平成28年5月26日諮問・平成29年6月16日答申）
諮問内容

「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」

本県の高等学校教育の質の向上に向けて

生徒・保護者・地域のニーズに応じた県立高等学校の在り方の検討

県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）2018年（平成30年）5月18日策定

- 望ましい学校規模は1学年4～6学級
- 1学年3学級以下の学校は、魅力化を図りながら、都市部も含めて統合を推進
- 「普通科・総合学科」：「職業系専門学科」の割合を2：1となるよう学科を適切に配置
- 「進学指導重点校」や「職業教育拠点校」など生徒の進路希望に応じた特色ある学校を配置
- 過疎・中山間地域の高等学校において、地理的条件などを考慮し、1学級本校化などの措置を例外的に実施

県立高等学校改革前期実施計画

2019年度～2023年度

（現在策定作業中）

応じた県立高等学校の在り方の検討

県立高等学校改革後期実施計画

2024年度～2028年度